

「町田生きもの共生プラン ―生物多様性はじめの一步」

2017年度進捗報告書

「町田生きもの共生プラン」は、「第二次環境マスタープラン」の下位計画にあたり、基本目標2「自然環境と歴史的文化的環境の保全」において、生物多様性保全を推進していくためのプランです。

本報告書では、4つの基本方針とそれに沿った目標に対する成果と課題をまとめています。また、4つの目標ごとに掲げる施策を横断的かつ効果的に推進するための重点プロジェクトの進捗状況についても報告します。

なお、達成目標の目標年度は、2021年度です。

基本方針1 意識高揚 ～理解する～

<目標> 町田市の生きものや自然に関心をもち、町田市の魅力の一つととらえ、生きものや自然に親しみと愛着を持つ市民・子ども・事業者を増やします。

<成果と課題>

・市内の生きものや水と緑にふれあう場所を紹介する「まちだ生きもの探しマップ」を4,000部発行、ツバメ見守りステッカーを1,500枚作成し、公共施設やイベントでの配布をしました。新聞をはじめ、様々なメディアに取り上げられるなど、多くの市民に普及啓発を行うことができました。

・学校教育部、子ども生活部などの多くの部署において、子どもたちが生きものや自然にふれあい、学習する機会を提供しています。さらに、市内の様々な地点で、自然観察会が実施され、生きものや自然に親しむ機会が提供されています。

・各取り組みによって高まった意欲を次の活動にどうつなげるかが課題です。

・事業者向けの普及啓発に着手することができていません。

<関連する重点プロジェクト>

①生物多様性情報拠点（生物多様性センター）機能の構築・充実

④市民協働による生きもの調査の実施

基本方針2 人材育成 ~育つ~

<目標> 生物多様性の維持・向上に関わる知識を持って保全活動を行う人材を育てます。

<成果と課題>

・市民協働による生きもの調査や環境学の講座を通して、生物多様性の維持・向上に関わる知識を提供しました。しかし、既存の保全団体に加入しての活動にはつながっていない状況があります。

・町田生きもの共生フォーラムにおいて、伐採木活用事例の報告やワークショップを団体と協力して行いました。

・今後は、市内で活動する人材の活躍の場をさらに作っていくことが課題となります。

<関連する重点プロジェクト>

②多様な主体の交流の場づくり

④市民協働による生きもの調査の実施

基本方針3 協働・連携 ~つながる~

<目標> 多様な主体の協働・連携により、町田市の生きものやその生育・生息環境を守ります。

<成果と課題>

- ・ウェブ上のコンテンツで保全活動を行う団体を紹介しています。
- ・町田生きもの共生フォーラムを団体と協力して開催しました。
- ・市民を募り、市内全域でのセミやツバメの生息状況調査を行いました。
- ・市民団体との協定により里山再生事業の取り組みを進めています。
- ・市内の調整池では下水道用地アダプト活動（自主的な美化等の活動）をしている市民団体による清掃と生きもの調査が実施されています。
- ・大学や事業者などとの協働、連携を進める上での情報収集をしていく必要があります。

<関連する重点プロジェクト>

- ・重点プロジェクト①生物多様性情報拠点（生物多様性センター）機能の構築・充実
- ・重点プロジェクト②多様な主体の交流の場の提供
- ・重点プロジェクト③里山の生物資源利用促進の推進
- ・重点プロジェクト④市民協働による生きもの調査の実施

基本方針4 保全と持続可能な利用 ～守る・活用する～

<目標> 町田市の生きものやその生育・生息環境を守り、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを構築します。

<成果と課題>

・里山環境再生事業のモデル地区を2か所抽出し、1地区において、認知症の方が里山の手入れを行ったり、タケノコ堀りなどのイベントを実施する団体と協定を締結しました。

・外来種であるアライグマ・ハクビシンについて、これまでの農業被害対策に加え、一般市民向けに特徴や寄せ付けない方法などの周知を行うとともに、防除事業開始の準備を進めました。

・町田産農作物の学校給食での活用のため、新規にまち☆ベジメニューの日を1回実施、農家と給食栄養士のマッチング会を実施しました。

・今後は、保全の取り組みをさらに推進するとともに、市民が生物多様性の恵みを実感できる取り組みを行っていく必要があります。

<関連する重点プロジェクト>

③里山の生物資源利用促進の推進

⑤ビオトープ作庭イベントの開催

重点プロジェクトの進捗状況

①生物多様性情報拠点（生物多様性センター）機能の構築・充実

町田市の生物多様性の取り組みの検討の場、情報や資料の収集・発信の拠点をつくります。

指標：市民アンケート調査結果による生きものに関心のある市民の割合

達成目標：40.0%

年度	基準年（2013）	2015	2016	2017	2021
割合	31.3%	28.1%	27.8%	37.4%	40.0%

<取り組み状況についての説明>

市のウェブ上で生物の情報を発信している「町田市の生物多様性のページ」に、湧水や外来種のコンテンツを新たに加えました。

普及啓発資料として「まちだ生きもの探しマップ」を作成、4,000部発行し、各種メディアに取材されました。

外来種をはじめとする生きものの生息情報の報告を63件（2/23現在）受けました。

アライグマ・ハクビシンの農業被害以外の問い合わせ先について、全庁的な整理を行い、一元化して当課が対応することとしました。

情報拠点のあり方について、改めて検討し、当初予定していた生物多様性が豊かな場所に情報発信の場を設置することを、昨年度は見送ることにしました。

今後は、市民がアクセスしやすい情報拠点機能のありかたを再検討します。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
工程表	内容・方向性の検討	ホームページ上に生物多様性のページ作成	ホームページ上での情報発信				拠点機能の充実
			内容・方向性の検証		拠点機能の整備		

重点プロジェクトの進捗状況

②多様な主体の交流の場づくり

多様な主体の交流の場である「(仮称) 生物多様性フォーラム」を定期的で開催します。

指標：多様な主体の交流の場の提供回数

達成目標：6回

年度	基準年 (2013)	2015	2016	2017	2021
回数	—	1 (試行)	1	1	6 (累計)

<取り組み状況についての説明>

「里山を楽しく生かす」をテーマに、相原中央公園にて町田生きもの共生フォーラムを開催しました。同公園で現代の里山のあり方を考え活動をしている団体、コエダプラスプロジェクトと連携し、伐採木による鉛筆作りワークショップ、園内ガイドツアーを実施。5団体からパネル出展がありました。

参加者は36人で、子どもが24人でした。

パネル出展が前年度の数を下回ったことと、実際に活動を行っている参加者がほとんどおらず、多様な主体の交流の場としては不十分でした。次回は手法・場所を検討し実施します。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
工程表	検討・プレフォーラム	「(仮称) 生物多様性フォーラム」 定期的開催 (年1回) →					
	の実施	第一回「未来に伝えよう！町田の生物多様性」	第二回「里山を楽しく生かす」	第三回「ビオトープ」(案)	第四回「生きもの調査」(案)	第五回「外来生物とのつきあい方」(案)	第六回「町田の生物多様性と魅力発信について」(案)

重点プロジェクトの進捗状況

③里山の生物資源利用促進の取り組みの推進

手入れがされなくなって植生が単調になった雑木林の手入れを行いやすくするため、伐採木等の利用方法などを考えていきます。また、里山の保全や手入れなどを行っている市民などと協働して実施できる取り組みを検討し、実施します。

指標：里山の生物資源利用促進の取り組みの実施

達成目標：取り組みの推進

年度	基準年（2013）	2015	2016	2017	2021
内容	—	検討	検討	試験的实施	本格実施

<取り組み状況についての説明>

北部丘陵において、活用可能な山林の基礎調査、地域住民や活動団体への個別ヒアリング、地区別の意見交換会に基づき、モデル地区を2箇所抽出しました。（上小山田町田中谷戸周辺、下小山田町東谷戸周辺）。下小山田町東谷戸周辺のモデル地区においては「竹林を活用した認知症当事者の自立支援に関する協働事業」に関する協定を団体と締結し、新たに里山保全活動を始め、当初2018年度に予定していた協定締結による保全活動を前倒しして実施することが出来ました。モデル地区での実践を通じて仕組み等の課題を把握し、本格運用に向けた準備を進めます。

また、里山保全の基礎的技術の普及を目的として、指定管理者が小野路公園で開催した、雑木林管理講習会への協力や公園緑地の維持管理を行う団体登録を受け付けし、謝礼金の支払いや物資の支給により、活動の支援を行いました。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
工程表	方向性・取り組み内容の検討	→	取り組みの試験的实施	→	→	取り組みの本格的実施	→

重点プロジェクトの進捗状況

④市民協働による生きもの調査の実施

多くの方に生きもの調査に参加していただき、市内の生きもの状況を知る機会をつくり
ます。

指標：市民協働による生きもの調査への参加者数

達成目標：3500人（累計）

年度	基準年（2013・14）	2015	2016	2017	2021
年度人数	99・132	286	517	309	—
累計人数	—	286	803	1,112	3,500

<取り組み状況についての説明>

市民協働による生きもの調査により、セミの鳴き声とツバメの営巣状況を調査し、セミの鳴き声調査 257人、ツバメの巣探し調査 52人が参加。関連イベントとして、セミ・セミナー（111人参加）、ツバメの巣の観察講座（17人参加）を実施しました。5～6月のツバメの調査結果により、市内には営巣環境が残されていることがわかったため、ツバメの子育てを見守ることを啓発するステッカーを3月に1,500枚作成、配布開始しました。

今後も身近な生きものに目を向け、市内の生きもの生息状況を把握するため、調査を継続していきます。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
工程表	調査の実施、 調査内容・運 営の改善				事業の検 証、改善		
	セミの鳴き 声調査						
	かいぼり生 きもの調査	セミのぬけ がら調査	ツバメの巣 探し調査	水辺の生き もの調査	カエルの卵 塊調査（案）	調査の実施 冬の野鳥調査 （仮案）	植物調査（仮 案）
	早春の生き もの調査						

重点プロジェクトの進捗状況

⑤ビオトープ作庭イベントの開催

まちぐるみでビオトープを作庭し、イベントを開催します。

指標：イベント参加主体数

達成目標：50

年度	基準年（2013）	2015	2016	2017	2021
数	—	—	—	—	50

<取り組み状況についての説明>

先進事例として足立区の視察をし、家庭で取り組みそうなビオトープの例を収集しました。

2018年度のイベント開催に向けて、収集した情報を活かしていきます。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
工程表	情報収集、「ビオトープ作庭イベント」の内容検討			普及啓発資料発行	普及啓発資料公開、配布		
				イベント開催（年1回）			

参考資料 施策一覧 基1

基本方針目標	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2017年度実施状況	課名
1	1	① ★忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	小野路宿里山交流館土蔵において、小野路の自然についての企画展示を実施し、小野路の自然に興味を持つ人に対して小野路の魅力を伝えることができました。	産業観光課
1	1	① ★忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	がにやら通信を発行し、約620部館内で配布来園者に四季おりおりの情報を発信しました。毎月の発行を楽しみにされている方もいられ観察会の予定等の情報も発信できました。	公園緑地課
1	1	① ★忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	忠生がにやら自然館において、生きもの調査や普及啓発資料の配布を実施しました。	環境・自然共生課
1	1	① ★登録文化財制度による市内の生きもの情報発信	2017年度中、全4回文化財保護審議会を実施しました。2016年度中は自然誌にかかる議題が発生しませんでした。次年度以降も学識経験者を委嘱して議題に対応できる体制を維持していきます。	生涯学習総務課
1	1	① ★町田市の生物多様性に関する情報の普及啓発資料の作成	ホームページ上の生物多様性のコンテンツに新たに湧水のコンテンツを作成し、外来種の情報を更新しました。 町田の生物や緑と水辺に親しめる場所、生きもの調査の結果などを紹介する資料として「まちだ生きもの探しまップ」を作成し、配布しました。初版1,000部はすぐに不足したため3,000部を増刷し、新聞やラジオなどで取り上げられ、普及啓発効果がありました。 ツバメの巣探し調査結果を踏まえ、ツバメステッカーを1,500枚作成し、年度内に500枚を配布しました。	環境・自然共生課
1	1	① ・外来種の飼育に関する情報の発信	環境広報紙ECOまちだ(125,000部発行)秋号に外来種に関する記事の掲載や、「まちだ生きもの探しまップ」(4,000部発行)の外来種コラムに「外来生物被害予防三原則」を掲載したりと、様々な媒体で情報を発信することができました。 ミシシippアカミミガメが特定外来生物に指定された場合の問合せ先FAQを作成しました。	環境・自然共生課

基	施 策	施 策	具体的な取り組み	2017年度実施状況	課名
1	1	①	★外来種の取り扱い・ルールに関する情報の発信	ホームページ上にアライグマ・ハクビシンの情報を追加掲載しました。環境広報紙 ECO まちだ(125,000部発行)秋号に外来種に関する記事の掲載や、「まちだ生きもの探しマップ」(4,000部発行)の外来種コラムに「外来生物被害予防三原則」を掲載したりと、様々な媒体で情報を発信することができました。	環境・自然共生課
1	1	②	★事業者向け普及啓発資料の作成	実施なし (事業者対象の配布物については、普及啓発とともに営業活動の負担にならずメリットにつながる取組内容を提供する必要がありますが、提供に適した情報を収集できていません。)	環境・自然共生課
1	1	③	★生物多様性に関する資料・情報や環境保全活動等に関する情報を収集・発信する仕組みづくり	重点プロジェクト①参照	環境・自然共生課
1	1	④	・町田市農業祭の開催	11月に町田シバヒロにて町田産農畜産物の販売や・品評会等を行い、市民に町田市の農畜産物をPRしました。イベントパンフレットの刷新やホームページの活用により、約1万名の来場者へ町田産農畜産物のPRを行うことができました。	農業振興課
1	1	④	★市民協働による生きもの調査の実施	重点プロジェクト④参照	環境・自然共生課
1	1	④	・町田エコフェスタ等環境イベントにおける生物多様性に関するイベントの実施	エコフェスタにおいて、生きもの調査の結果を展示し、セミとツバメのペーパークラフトを配布しました。 イベントスタジオで8/14~25の間、町田の生きものや自然環境に関する展示を実施しました。約350人が来場し、普段生きものに関心のない方にもご覧いただくことができました。	環境・自然共生課
1	2	①	★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。ドングリ植え及び植樹を行うことによって、身近な自然を楽しみ、親んでもらうことができました。	北部丘陵整備課

基	施 策	施 策	具体的な取り組み	2017年度実施状況	課名
1	2	①	★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	<p>【幼児向け芋ほり】</p> <p>・ばあん（子どもセンター・南地域）にて、10/27に地域の畑でサツマイモの収穫を親子で体験し、身近な野菜がどのように作られているか、興味をもつきっかけになりました。</p> <p>【野菜栽培】</p> <p>・たけの子学童保育クラブでは、5月～8月にかけて2階のテラスでプランター栽培を行いました。種まき、発芽、水やりをする中で植物の成長と収穫の喜びを感じました。</p> <p>・子どもセンターばあんでは、9月～3月にかけて屋上でプランター栽培を行いました。子どもたちが植えつけ、水やりなど、収穫などを体験し、収穫の喜びを実感しました。</p>	児童青少年課
1	2	①	★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	<p>【科学クラブにおける生物・地学系講座】</p> <p>8回実施された講座を通して、生物・地学への興味のきっかけ作りとなりました。</p> <p>【自然素材を用いた工作講座】</p> <p>主にひなた村の自然素材を使用し、子どもたちの創造性を育むことができました。</p>	児童青少年課 (ひなた村)
1	2	①	★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	<p>自然体験塾、子どもキャンプ、ハイキング、森林体験塾等各事業を、計11回実施しました。参加者に記入していただくアンケートを集計した結果、4段階中最高評価の回答「とても楽しかった」が全体の89.6%を占めました。</p>	大地沢青少年センター
1	2	①	★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	<p>市民協働による生きもの調査に関連して、ツバメの巣の観察講座、セミ・セミナーを実施しました。ツバメの巣の観察講座では、ペーパークラフトを配布し、遊びながらツバメの特徴を学べるようにしました。セミ・セミナーは出入り自由とし、実際のぬげがらを見分けたり、クイズを取り入れるなどして、子ども連れが参加しやすい形で実施し、好評でした。</p> <p>町田生きもの共生フォーラムにおいて、伐採木による鉛筆作りワークショップを実施し、子ども23人が参加しました。</p>	環境・自然共生課
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	<p>小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。ドングリ植え及び植樹を行うことによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。</p>	北部丘陵整備課

基	施 策	施 策	具体的な取り組み	2017年度実施状況	課名
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	<p>【ディキャンプ・キャンプ】</p> <p>ただON(子どもセンター・忠生地区)にて、デイキャンプは7/21に、キャンプは2/10～2/11に実施しました。大地沢の散策し自然を感じたり、触れることで参加者が自然の大切さや魅力を感じることができました。</p> <p>【町田市一周チャレンジハイク】</p> <p>町田市を一周74km、3/26～3/28の3日間かけて歩くプログラム。今回は、桜の開花時期と重なり、様々な桜の種類や南北での開花の違いなど感じながら活動をすることができ、参加者が自然に興味を持つきっかけになりました。</p> <p>【みんなで歩こう境川！】</p> <p>11/18に大地沢の源流から子どもセンターばあんまでの25キロを境川に沿って歩きました。その中で、生きものや植物の生態系の違いなどを感じ、参加者同士が興味を共感することができました。</p>	児童青少年課
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	<p>【ネイチャーグループの通年活動】</p> <p>ひなた村内外での活動を年間17回実施。ひなた村施設内の環境を中心とした自然に触れ、自然の大切さを感じることを通じて、子どもたちの成長につながりました。</p> <p>【自然体験型講座】</p> <p>子ども向けを3回、冬季自然体験たきび関連を9回、イブニング・キャンプを1回実施しました。ロープを組んだ綱渡りや、たきび等を通じて、自然の中で学びや体験の機会を提供しました。</p>	児童青少年課 (ひなた村)
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	<p>自然体験塾、子どもキャンプ、ハイキング、森林体験塾等各事業(屋内実施の事業を除く)を、計10回実施しました。参加者に記入していただくアンケートを集計した結果、4段階中最高評価の回答「とても楽しかった」が全体の89.8%を占めました。</p>	大地沢青少年センター
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	<p>第2回町田生きもの共生フォーラムにおいて、相原中央公園のガイドツアーを実施しました。</p>	環境・自然共生課

基	施 策	施 策	具体的な取り組み	2017年度実施状況	課名
1	2	②	★地域ボランティア等との交流による学校ビオトープの活用	<p>大蔵小学校・小中一貫ゆくのき学園大戸小学校において学校ビオトープを積極的に活用し、授業を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科や理科、総合の学習において、虫やメダカなどの水辺の生き物の観察・飼育を行いました。 ・地域の方々の協力を得ながらビオトープの整備を行うとともに、児童が学習等で活用しました。 ・学校近くの池の清掃活動を行ったり、「ホタル観賞会」を行いました。 <p>ビオトープの管理をし、生き物と触れ合うことを通して、自然の仕組みを学ぶとともに、動植物への愛着の心を育てることができました。</p>	指導課
1	2	②	学校における農業体験の推進	<p>小学校全校でバケツ稲を実施し、農業に触れる体験を推進しました。地域の農家と協力し、子どもが農業体験をする機会を確保しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の農家や保護者の協力を得ながら田や畑を耕し、米や野菜を育てて食べる活動を行いました。 ・米作りでは、田んぼの管理とは別に、一人一つ自分の稲を持ち、水の管理と観察を行った。収穫後に残った藁を使って「しめ飾り」を作るなど、副産物を有効に活用する取組を実施しました。 <p>農業体験活動を通して、児童の食文化や健康について理解を深めました。また、自分の稲を持つことで、近くからの観察が可能になり、稲を大切に育てようとする気持ちを高めることができました。</p>	指導課
1	2	②	・生きものとふれあうことができる場づくり	<p>小中一貫ゆくのき学園において、ヤギを飼育することを通して、生きものと触れ合うことができる場を提供しました。</p> <p>これまでのヤギが亡くなり、新たに2頭の子ヤギの飼育を行いました。全学年の児童が輪番で、中休みと放課後に小屋の掃除やえさやりを行いました。輪番ですべての児童が経験することにより、一人一人がヤギとかかわることができ、ヤギの習性を学んだり、動物への愛着の心を育てたりすることができました。</p> <p>また、飼育委員や中学生も活動を行いました。</p>	指導課
1	2	②	・地域の自然を育むための苗木の育成、苗木植え	<p>小中一貫ゆくのき学園、相原小学校において、林業体験を通して、地域の自然にはぐくむための苗木の育成、苗木植えを実施しました。</p> <p>相原地区の自然環境保全団体の方に指導をしてもらい、共有林の歴史、小学校との関係について話をしてもらいました。また、下草刈りや木の生長の測定の仕方の指導、間伐の体験等を実施しました。林業体験を通して、木の特性を学ぶとともに、学校が地域と結びついているという実感や、森を守っていこうとする意欲を育てることができました。</p>	指導課

基	施 策	施 策	具体的な取り組み	2017年度実施状況	課名
1	2	②	・地域の自然を育むための苗木の育成、苗木植え	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。ドングリ植え及び植樹を行うことによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	北部丘陵整備課
1	2	③	・フットパスの普及促進	まちだフットパスの道標を「相原から七国峠」コースに2基設置しました。 小野路宿里山交流館のイベントとして、里山歩きを実施しました。 ・小野路エリアに関しては一定の基盤整備が進みましたが、全市的には不十分な状態となっています。 ・里山歩きのイベントを通じて、小野路の魅力を伝えることができました。	産業観光課 (観光まちづくり課)
1	2	③	・自然観察会の実施	忠生公園で自然観察会を年間で12回開催し、218名の参加がありました。幼稚園生からご年配の方まで幅の広い参加者に自然観察を楽しんでいただきました。	公園緑地課

施策一覧 基2

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2017年度実施状況	課名
2	1	①	★町田市の自然環境 や生きものに詳しい 人材の把握と活用	相原中央公園の指定管理者 NPO 法人レスポワール相原、同公園の活動団体コエダプラスプロジェクトと協力して、11/23 に第 2 回町田生きもの共生フォーラムを実施しました。	環境・ 自然共 生課
2	1	①	★ネイチャーリーダ ー講座の実施	【指導者向け講習】 自然体験講座を 1 回、たきび関連を 1 回実施しました。子どもたちを指導するためのロープワークやたきびのスキルを会得してもらいました。	児童青 少年課 (ひなた 村)
2	1	①	★市民協働による生 きもの調査の実施 【再掲】	重点プロジェクト④参照	環境・ 自然共 生課
2	1	①	・環境講座の実施	<p>まちだ市民大学 H A T S の連続講座（環境学）を通して、市民が環境問題を身近な課題として考え、自主的に保全活動に参加するよう支援しました。その一環として、2017 年 6 月 10 日に鶴見川流域の水生生物の生態系について、現地調査（体験学習）を実施しました。</p> <p>また、2017 年 10 月 30 日に生涯学習センターにて生物多様性の講義と、11 月 18 日に多摩動物公園にて現地見学（体験学習）を実施しました。</p> <p>環境講座の体験学習を通じて、受講者に水生生物が棲みやすい環境を守り続けていく活動の大切さや、多様な生物が生存していける環境を保全していくことの大切さなどを学んでもらいました。</p>	生涯学 習セン ター

基	施 策	施 策	具体的な取り組み	2017年度実施状況	課名
2	1	②	・ 援農者、新たな担 い手の育成	<p>農家を支援する援農者や新たに農業経営を目指す方など、「自ら耕作できる技術を持った人材」の育成を目的とした2年間の農業研修を行っています。</p> <p>2017年度は第7期生7名(2年目)、8期生11名(1年目)の研修を行いました。</p> <p>近隣農家の作付けを参考に、夏作6畝8種類、秋作6畝8種類を研修しました。</p> <p>第7期生7名は研修を修了し、修了式を行いました。今後、農業の担い手として活躍が期待されます。</p>	農業振 興課
2	1	②	・ 意欲のある農業者 の支援	<p>認定を希望する農業経営者の経営計画について相談等の支援を行い、認定農業者4名、認定新規就農者1名を認定しました。</p> <p>意欲ある農業者の支援を行い、農業の担い手を育成しました。</p>	農業振 興課

施策一覧 基3

基本方針目標	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2017年度実施状況	課名
3	1	① ★市民協働による生物多様性保全に関する取り組みの実施	市民協働による生きもの調査を実施しました。セミの鳴き声調査 257 人、ツバメの巣探し調査 52 人が協力して生きもの調査を実施し、結果を公表しました。 ツバメの巣が一定数見つかったことにより、子育て見守りを啓発するステッカーを作成、配布しました。	環境・自然共生課
3	1	① ★市民協働による生きもの調査の実施 【再掲】	重点プロジェクト④参照	環境・自然共生課
3	1	② ・市民による河川の清掃活動の推進	町田・相模原の両市民の有志で構成された境川クリーンアップ作戦実行委員会との確認書に基づき、境川クリーンアップ作戦の実施に関する広報を、町田市ホームページと広報まちだで行いました。当日は、前を上回る 2570 人が参加し、事業全体で合計 1120kg のごみを回収することができました。	下水道総務課
3	1	② ・市民による水路の維持管理の支援	町田市下水道用地等アダプト事業の推進と支援を行いました。今年度は新たに 3 団体と協定を締結しました。このうち 2 団体は水路用地、1 団体は下水道用地でのアダプト活動となります。 高ヶ坂松葉調整池で活動している団体（鶴見川源流ネットワーク）については池の清掃活動だけでなく、生きもの調査活動も行いました。（定例活動は 2 ヶ月に 1 回です。）	下水道管理課
3	1	② ★生物多様性に関する情報の提供	ホームページ上のコンテンツ「町田の生物多様性のページ」に市民団体の紹介を掲載しています。	環境・自然共生課
3	1	③ ★市民や市民団体が活動内容の発表や情報交換等の交流を行う場づくり	重点プロジェクト②参照	環境・自然共生課
3	1	③ ★市民協働での里山管理の仕組みの検討	里山環境の回復や保全を促進する仕組みの構築をめざし、地域住民や活動団体等が参加する地域別（小野路町・上小山田町・下小山田町）の意見交換会を開催しました。そこから事業別の小さなプラットフォーム（関係者同士が意見交換や交流を深める場）へ発展させていきます。	北部丘陵整課

基	施 策	施 策	具体的な取り組み	2017年度実施状況	課名
3	2	①	★大学や事業者との連携による啓発事業や調査等の実施	未実施 (環境に関する取り組みを行っている大学や事業者が市内にあることから、連携が可能な取り組みができるかどうか、情報収集に着手する必要があります。)	環境・自然共生課

施策一覧 基 4

基本方針目標	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2017年度実施状況	課名
4	1	① ・里山環境再生事業の実施	鶴見川源流域及び奈良ばい谷戸において、環境再生事業を実施しました。雑木林や谷戸の適切な管理作業をすることによって、里山環境の維持保全をすることができました。樹木の伐採更新（萌芽更新）や竹伐採を行い、適正な雑木林になるように管理を行いました。伐採した樹木や竹については土砂流出防止のためのカントリーヘッジとして利用しています。	北部丘陵整備課
4	1	① ★里山環境再生事業の新規実施地域の検討	重点プロジェクト③参照 （活用可能な山林の基礎調査、地域住民や活動団体への個別ヒアリング、地区別の意見交換会に基づき、新たな仕組みで行う里山環境再生事業のモデル地区を2箇所抽出しました。（上小山田町田中谷戸周辺、下小山田町東谷戸周辺） さらに、活動団体と下小山田町東谷戸周辺のモデル地区において協定を締結し、新たに里山保全活動を始めました。）	北部丘陵整備課
4	1	① ・町田市ふるさとの森の保全	「広袴神明ふるさとの森」を特別緑地保全地区として都市計画決定しました。 8月、10月開催の都市計画審議会に広袴特別緑地保全地区について付議し、事業説明を行いました。審議の結果、都市計画決定が承認され、10月27日に告示されました。	公園緑地課
4	1	① ★里山環境再生事業の新規実施地域の検討	現地調査や市民要望に応じて草刈や剪定等を行い市内の緑地を保全しました。 草刈りや樹木剪定を適切に行うことによって市内の緑地が保全され、動植物にとっても生息・生育しやすい状況に保つことが出来ました。	公園緑地課
4	2	① ・市民による河川の清掃活動の推進【再掲】	町田・相模原の両市民の有志で構成された境川クリーンアップ作戦実行委員会との確認書に基づき、境川クリーンアップ作戦の実施に関する広報を、町田市ホームページと広報まちだで行いました。当日は、前回は上回る2570人が参加し、事業全体で合計1120kgのごみを回収することができました。	下水道総務課
4	2	① ・下水処理における適正な水処理	下水処理場では、適正な水処理運転により安定して良好な処理水質を得ることができ、放流先河川の良好な水質の保全に寄与しました。 成瀬クリーンセンターでは、段階的高度処理による処理水の窒素及びりん含有量を1年通じて目標値以下に削減しました。	水再生センター

基	施 策	施 策	具体的な取り組み	2017年度実施状況	課名
4	2	①	・市民による水路の維持管理の支援【再掲】	町田市下水道用地等アダプト事業の推進と支援を行いました。今年度は新たに3団体と協定を締結しました。このうち2団体は水路用地、1団体は下水道用地でのアダプト活動となります。 高ヶ坂松葉調整池で活動している団体（鶴見川源流ネットワーク）については池の清掃活動だけでなく、生き物の調査活動も行いました。（定例活動は2ヶ月に1回です。）	下水道管理課
4	2	②	・雨水幹線整備時における水辺環境への配慮	実施なし （2017年度は水辺環境に配慮できる雨水幹線整備事業がありませんでした。）	下水道整備課
4	3	①	・街区公園整備事業	実施なし （2017年度は新たな街区公園整備を実施しませんでした。）	公園緑地課
4	3	①	・公園・緑地の整備・管理における生物多様性保全の推進	現地調査や市民要望に応じて、草刈や剪定を行いました。また、雑木林管理者講習会を実施しました。草刈や剪定を実施した結果、市内の緑地を保全することが出来ました。	公園緑地課
4	3	②	・緑の連続性に配慮した街路樹の維持・管理	町田市道上の街路樹植栽帯へ、中高木21本、低木1331株を補植し、緑の繋がりを確保したことにより、道路上にうるおいをもたらす緑化に繋がりました。	道路維持課
4	3	③	★開発事業実施の際の生物多様性への影響に対する配慮の検討	実施せず （事業者を対象とする場合、専門的な内容かつ、営業活動の負担にならずメリットにつながる情報を提供する必要があるため、事業者と協力してできる取り組みを検討していきます。）	環境・自然共生課、関係各課
4	4	①	★市内の生きものの生育・生息状況の把握	外来種のアライグマ・ハクビシンに関して市内の情報を一元化したところ、年間90件程度の苦情が入っていることがわかりました。 セミの鳴き声調査に257人、ツバメの巣探し調査に52人の市民が協力して生きもの調査を実施し、結果を公表しました。	環境・自然共生課
4	4	①	★市民協働による生きもの調査の実施【再掲】	重点プロジェクト④参照	環境・自然共生課
4	4	①	★生物多様性の現状を把握するための環境指標種*の検討	市民に身近な鳥であり、営巣に泥・枯草・エサとなる虫を必要とするツバメを対象とし、市民協働による生きもの調査を実施することにしました。	環境・自然共生課

基	施 策	施 策	具体的な取り組み	2017年度実施状況	課名
4	5	①	・外来種の飼育に関する情報の発信【再掲】	環境広報紙 ECO まちだ(125,000部発行)秋号に外来種に関する記事の掲載や、「まちだ生きもの探しマップ」(4,000部発行)の外来種コラムに「外来生物被害予防三原則」を掲載したりと、様々な媒体で情報を発信することができました。 ミシシッピアカミミガメが特定外来生物に指定された場合の問合せ先FAQを作成しました。	環境・自然共生課
4	5	①	★外来種の取り扱い・ルールに関する情報の発信【再掲】	ホームページ上にアライグマ・ハクビシンの情報を追加掲載しました。環境広報紙 ECO まちだ(125,000部発行)秋号に外来種に関する記事の掲載や、「まちだ生きもの探しマップ」(4,000部発行)の外来種コラムに「外来生物被害予防三原則」を掲載したりと、様々な媒体で情報を発信することができました。	環境・自然共生課
4	5	②	・生態系に被害を及ぼす特定外来生物アレチウリの駆除	定期巡回を行い、アレチウリの駆除を行いました。アレチウリの除去を継続的に行い、ほぼ被圧することができました。	北部丘陵整備課
4	5	②	・農業生産に被害を及ぼす特定外来生物アライグマの駆除	有害鳥獣による農作物被害は、イチゴ、トマト、トウモロコシ等を中心に果樹類に至るまで、ほぼ通年発生しています。その対策として捕獲委託をし、特定外来生物(ハクビシン・アライグマ)を含めた小動物約50頭の捕獲を行いました。 農作物被害に遭わないための、防除について啓発活動が課題です。今後も、被害軽減のため、捕獲委託は継続していきます。	農業振興課
4	5	②	★外来種への対応の検討	アライグマ・ハクビシンの駆除を求める内容の市民からの問い合わせについて、窓口が定まっていませんでしたが、環境・自然共生課に一元化しました。 外来生物アライグマ・ハクビシン駆除事業の開始に向けた準備を進めました。 市民からヒアリの問い合わせが30件あり、簡易判定を行いました。	環境・自然共生課
4	6	①	・農業体験の実施	市民公募を行い、米づくり体験を実施しました。 米づくりを体験することによって、身近な自然を楽しみ、親んでもらうことができました。	北部丘陵整備課
4	6	①	・農業体験の実施	農業委員の指導で、自然への親しみ・農業の大切さというものを体感してもらうため、田植え・稲刈りといった米作り農業体験を市民公募で実施しました。 米づくりを体験することによって、身近な自然を楽しみ、親んでもらうことができました。	農業振興課

基	施 策	施 策	具体的な取り組み	2017年度実施状況	課名
4	6	①	・生きものや自然に親しめるイベント等の実施	市民公募を行い、タケノコ堀、サツマイモ堀、ウォーキング等のイベントを実施しました。 各イベントに参加することによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	北部丘陵整備課
4	6	①	・生きものや自然に親しめるイベント等の実施	忠生公園自然観察センター、かしの木山自然公園において四季おりおりの植物、昆虫、野鳥などを題材とした観察会を実施しました。定例自然観察会について、広報まちだに掲載、また両公園の掲示板にも掲載しPRをしました。毎回観察会ボランティアの協力もあり多くの参加者を楽しんでいただきました。	公園緑地課
4	6	②	・まちだフットパスの利用促進【再掲】	まちだフットパスの道標を「相原から七国峠」コースに2基設置しました。 小野路宿里山交流館のイベントとして、里山歩きを実施しました。 小野路エリアに関しては一定の基盤整備が進みましたが、全市的には不十分な状態となっています。 里山歩きのイベントを通じて、小野路の魅力を伝えることができました。	産業観光課 (観光まちづくり課)
4	6	②	★ビオトープ作庭イベントの開催	重点プロジェクト⑤参照	環境・自然共生課
4	7	①	・町田産農作物の学校給食での活用	地場農産物を使用したまちベジメニューを市内42校小学校で実施し、統一メニューを実施しました。 全校で取り組んでいることをPRすることで、児童や保護者にまちベジについて関心を持たせることができました。	保健給食課
4	7	①	・生産緑地の保全・活用	実施なし (例年、生産緑地の追加指定申請の募集を行っていますが、生産緑地法改正に伴う条例改正を行ったため、2018年度4月に実施。)	農業振興課
4	7	①	・町田産農作物の学校給食での活用	小学校給食への地場産農産物供給に対する補助を行いました。新規にまち☆ベジメニューの日を1回実施しました。農家と給食栄養士のマッチング会を1回行いました。 供給率の大幅な増加はありませんでしたが、市内全小学校で地場産野菜を供給することができました。	農業振興課
4	7	②	・減農薬・減化学肥料農法に取り組む農業経営者の支援	市内の畜産農家から堆肥を購入した場合の経費について、エコ農産物認証取得者およびエコファーマーに対して補助率を上げて堆肥流通促進事業補助金を交付しました。農業者に対して、窓口にてPRを開始し、エコ農産物認証申請者が16名になりました。	農業振興課

基	施 策	施 策	具体的な取り組み	2017年度実施状況	課名
4	7	②	・田んぼの保全推進	実施なし (2016年度は水田の保全に協力する方に対し奨励金を交付しましたが、制度の検証を行っています。)	農業振 興課
4	7	③	・遊休農地のあっせん制度	農地利用集積円滑化事業を継続実施し、遊休農地の有効活用を図ることによって、2件(13筆、2428㎡)の新規農地あっせんが成立しました。 また、農地パトロールを実施し、耕作していない農地のうち、自身で耕作する意向が確認できた農地が2057㎡あり、遊休農地の解消が図れています。	農業振 興課
4	8	①	・木の枝や落ち葉の堆肥としての利用・推進、堆肥流通促進制度の推進	市内畜産農家から堆肥を購入した場合の経費について、エコ農産物認証取得者およびエコファーマーに対して補助率を上げて堆肥流通促進事業補助金を交付しました。農業者に対して、窓口にてPRを開始し、家畜ふん尿の資源循環を促進することができました。	農業振 興課
4	8	①	・木の枝や落ち葉の堆肥としての利用・推進、堆肥流通促進制度の推進	緑のカーテン事業、環境月間、エコフェスタ、ルミネ町田屋上イベント、エコプロ2017、町田シバヒロ、木曾山崎センターまつり、さんあー祭りの各種イベントにおいて、袋入り剪定枝たい肥の販売や、下小山田苗圃(年2回)でのパネル展示等によるPR活動を実施しました。その効果として、各種イベントにおいてリピーターの方が多く来られ、剪定枝たい肥を利用した意見・感想を伺ったところ、とても好評でした。 谷外池公園・町田ダリア園では、剪定枝たい肥規格外品(たい肥の粒の大きなもの)を利用することにより、雨水対策・防草対策を行うとともに、景観もよくなりました。	資源循 環課
4	8	①	★生物資源利用促進の取り組みの実施	重点プロジェクト③参照	北部丘 陵整備 課、農 業振興 課、公 園緑地 課、環 境・自 然共生 課